

令和３年度
第４回県立高校将来構想検討協議会
（検討資料）

～次期県立高校将来構想（たたき台）について～

学校・学科の再編整備について

目 次

第 1 章 第 3 期県立高校将来構想の策定について

- 1 策定の趣旨
- 2 構想の期間

第 2 章 高校教育を巡る現状と課題について

- 1 県立高校を取り巻く状況
 - (1) 社会の変化
 - (2) 教育を巡る国の動き
 - (3) 山口県の現状
- 2 県立高校の現状と課題
 - (1) 子どもたちのニーズの多様化
 - (2) 中学校卒業生数の減少

第 3 章 今後の県立高校の在り方について

- 1 めざすべき県立高校像
 - (1) 県立高校像を考える視点
 - (2) 学校づくりの方向性
- 2 教育活動の充実
 - (1) 確かな学力を育成する教育の充実
 - (2) 豊かな心を育む教育の充実
 - (3) 健やかな体を育む教育の充実
 - (4) 進路実現に向けた教育の充実
 - (5) 生徒指導、相談・支援の充実
 - (6) 地域連携教育の充実
 - (7) ICTを活用した教育の推進
 - (8) グローバル人材やイノベーションを担う人材の育成
 - (9) 特別支援教育の充実
- 3 教育環境の充実
 - (1) 安心・安全な学校づくり
 - (2) 施設・設備の整備
 - (3) 教職員の資質・能力の向上
 - (4) 学校における働き方改革の推進
 - (5) 修学支援の充実

第4章 特色ある学校づくりと学校・学科の再編整備について

1 特色ある学校づくり

- (1) 基本的な考え方
- (2) 全日制課程の方向性
- (3) 定時制・通信制課程の方向性
- (4) 中高一貫教育の推進

2 学校・学科の再編整備

- (1) 再編整備の必要性
- (2) 望ましい学校規模
- (3) 再編整備の進め方
- (4) 再編整備を実施する学校の伝統継承

第5章 将来構想の推進について

- 1 学校の特色化・魅力化に向けた「スクール・ミッション」「スクール・ポリシー」
- 2 再編整備の実施計画の策定

2 学校・学科の再編整備

(1) 再編整備の必要性

「Society5.0 時代」の到来、グローバル化や少子高齢化の進行、産業構造や社会システムの激変など、教育を取り巻く環境が大きく変化していることから、新しい時代に対応した学校づくりが求められています。

こうした中、今後、中学校卒業生数の継続的な減少による学校の小規模化の更なる進行が見込まれることから、選択幅の広い教育や活力ある教育活動の展開、生徒が他者と協働しながら切磋琢磨する環境づくりなど、高校教育の質の確保・向上を図るためには、一定の学校規模の確保をめざした再編整備を進める必要があります。

このため、社会や地域の状況の変化、生徒のニーズの多様化等を踏まえ、各学校の社会的役割を明確にした上で、先に述べた特色ある学校づくりに取り組むとともに、次の方向で学校・学科の再編整備に取り組みます。

- 生徒のニーズ、学科の特性等に応じた高校卒業後の進路状況、本県の産業構造や地域バランス等を踏まえた学校・学科の適切な配置や適正な定員設定
- 教科等横断的な学びや他者と協働した探究活動の充実など、学科間連携による教育活動を推進する学校を配置
- 大学等への進学に重点を置く取組や高度な専門性をもった産業人材を育成する取組の充実などの拠点的な役割をもつ高校を、分散型都市構造にある本県の特性も考慮してバランスよく配置

(2) 望ましい学校規模

全日制課程の学校規模については、生徒・保護者アンケートの結果や、学校規模別の開設科目数・配置教員数・部活動数等を踏まえて検討した結果、これまでと同様、1学級当たりの生徒数を原則40人として、1学年4～8学級を望ましい学校規模とします。望ましい学校規模を確保することにより、次のような教育的効果が期待できます。

- 1校当たりの教員数が多くなり、多様で柔軟な教育課程が編成できることから、選択幅の広い教育が展開できる。
- 生徒数が多くなり、学校行事や生徒会活動、部活動等が活性化する。
- 多様な他者と協働したり、切磋琢磨したりすることにより、豊かな人間性や社会性、たくましさ等を培うことができる。

また、学校規模の拡大により、1校当たりの教員配置数が多くなることから、教科に複数の教員を配置しやすくなり、相互の授業研究などによる、教員の資質・能力の向上や授業の充実が図られるとともに、働き方改革の観点においても効果が期待できます。

【入学定員について】

各学校の入学定員については、中学校卒業見込者数、中学生の進路希望、地域の状況、高校生の進路状況等を踏まえて年度ごとに策定します。

その際、中学校卒業生数の減少傾向が続くことが見込まれることから、私立高校も含めた県全体の高校等の配置バランスをみながら、本県高校教育の維持・向上をめざした検討を行うことが必要となります。

(3) 再編整備の進め方

ア 全日制課程

【再編整備の基本方針】

第2期構想(現行)	
1	再編整備については、中学校卒業生数の推移や中学生の志願状況、高校卒業後の進路動向、通学実態、私立高校の配置状況などを総合的に勘案するとともに、地域における高校の実情や分散型都市構造にある本県の特性も踏まえ、次のような方針に基づいて、年次的かつ計画的に取り組みます。
2	全日制課程の1学年3学級以下の小規模校の再編統合を基本として、他の学校との再編統合により、望ましい学校規模の確保をめざします。 なお、1学年3学級の中高一貫教育校の学校規模については、学校全体の学級数を考慮することとします。
3	1学年2学級の学校について、生徒の通学実態等から望ましい学校規模の確保をめざした近隣の学校との再編統合が困難な場合には分校化を検討し、その際の最小学校規模は1学年1学級とします。
4	全日制課程を置く分校については、将来的に入学者が定員の二分の一を満たすことが見込まれない場合、募集停止を検討します。
5	こうした再編整備の実施に当たっては、高校教育の質の確保を図る観点や地理的条件、交通事情による生徒の教育への影響等を、総合的に勘案しながら検討します。

第3期構想(次期)	
再編整備については、中学校卒業生数の推移や中学生の志願状況、高校卒業後の進路動向、通学実態、私立高校等の配置状況などを総合的に勘案するとともに、地域における高校の実情や分散型都市構造にある本県の特性も踏まえ、次のような方針に基づいて、年次的かつ計画的に取り組みます。	
全日制課程の1学年3学級以下の学校の再編統合を基本として、他の学校との再編統合により、望ましい学校規模の確保をめざします。 また、再編統合が困難な場合には募集停止についても検討します。 なお、募集停止に当たっては、学校の近接性や学習内容等を考慮しながら、他の学校に教育機能を継承することを検討します。	
※ 1学年3学級の中高一貫教育校の学校規模については、学校全体の学級数を考慮することとします。	
全日制課程を置く分校については、地元中学校卒業生の入学状況や、今後の入学者数の見込みを見極めた上で、募集停止を検討します。	
こうした再編整備の実施に当たっては、高校教育の質の確保を図る観点や地理的条件、交通事情による生徒の教育への影響等を、総合的に勘案しながら検討します。	

【再編整備の方向性】

令和4年度の募集定員による全日制課程の学科別比率は、普通科系(理数科、英語科、探究科を含む)が57.0%、専門学科が34.6%、総合学科が8.4%となっています。

令和2年7月に実施した中学校2・3年生を対象としたアンケート調査によると、中学生の学科別の進路希望は、普通科系希望が2年生74.6%、3年生65.1%、専門学科希望が2年生22.7%、3年生29.5%、総合学科希望が2年生2.7%、3年生5.4%となっています。

また、高校卒業後の進路状況は、普通科系においては4年制大学等へ進学する生徒が多い傾向にありますが、専門学科においては就職する生徒が多く見られます。

こうした状況にあって、今後の県立高校の学校・学科の再編整備については、中学校卒業見込者数の推移や、中学生の志願状況、高校生の通学実態、高校卒業後の進路動向、私立高校等の配置状況などを総合的に勘案するとともに、地域における高校の実情や地域バランス、分散型都市構造にある本県の特長も踏まえながら適切な配置となるよう検討します。

なお、現在及び15年後の中学校卒業見込者数や現在の公立高校入学者数をもとに15年後の地域ごとの学科別学級数(1学級の生徒を40人とした場合)を想定すると、次の表のような状況となります。

[15年後の地域ごとの学科別学級数の想定]

※ 上段：15年後の学級数の想定 下段()：R3年度の実際の学級数

学科	地域				
	県東部	県中部	県西部	県北部	合計
普通・理数・英語・探究・総合学科	29 (48)	19 (29)	28 (48)	3 (9)	79 (134)
農業	2 (3)	4 (4)		1 (2)	7 (9)
工業	14 (17)	2 (2)	10 (15)	1 (2)	27 (36)
商業	4 (7)	5 (6)	7 (9)	1 (2)	17 (24)
水産				1 (2)	1 (2)
家庭	1 (1)		2 (2)		3 (3)
看護		1 (1)			1 (1)
地域創生	1 (1)				1 (1)
合計	51 (77)	31 (42)	47 (74)	7 (17)	136 (210)

※ 県東部：岩国市、和木町、柳井市、周防大島町、上関町、田布施町、平生町、下松市、光市、周南市
 県中部：山口市、防府市
 県西部：宇部市、山陽小野田市、美祢市、下関市
 県北部：萩市、長門市、阿武町

普通科系学科については、各学校や地域の実情、生徒・保護者のニーズに応じて、特色・魅力ある学びに向けた普通科の改革について検討します。また、思考力・判断力・表現力等を育成する探究的な活動の充実を図り、進路実現に向けた探究科の拡充を図ります。

専門学科については、教科等横断的な学びや他者と協働した探究的な活動等、学科間連携による教育活動を推進するため、再編統合による一定の学校規模の確保や学科改編を検討します。

総合学科については、生徒の学習ニーズや進路状況等を踏まえ、より活力ある教育活動が展開できるよう、学科の在り方について検討します。

さらに、中高一貫教育については、現在、中等教育学校1校、併設型中高一貫教育校1校、連携型中高一貫教育校1校において実施していますが、生徒の多様な進路希望等に的確に対応した教育課程の一層の充実を図るとともに、児童生徒や保護者・地域のニーズ等を考慮しながら、適正な定員配置や進学指導に重点を置いた中高一貫教育校の設置などを検討します。

イ 定時制・通信制課程

定時制課程の令和4年度募集については、多部制定時制課程3校、夜間定時制課程4校となっています。定時制課程を置く高校については、多様な学びのニーズに応える学校として、多部制の定時制課程や3年修業制、単位制の充実など、より柔軟な教育システムを構築し、活力ある教育活動が展開できるよう努めます。

通信制課程は、令和4年度から多部制の定時制課程を置く山口松風館高校に併置し、生徒・保護者のニーズに応えることができるよう平日における学習支援の在り方等を検討します。

(4) 再編整備を実施する学校の伝統継承

これまで、再編整備を行う学校の伝統を再編整備後の学校に可能な限り継承してきたところですが、引き続き、再編整備を実施する学校の伝統は、新たに設置する学校等に継承します。

第5章 将来構想の推進について

1 学校の特色化・魅力化に向けた「スクール・ミッション」「スクール・ポリシー」

各学校の特色化・魅力化を一層推進するため、この「第3期県立高校将来構想」において示された「めざすべき県立高校像」をもとに、各学校の「スクール・ミッション」を県教育委員会が設定した後、それを踏まえて「スクール・ポリシー」を各学校が策定します。

なお、「スクール・ポリシー」については、各学校が校内検討部会や学校運営協議会等において協議・検討した上で策定します。

2 再編整備の実施計画の策定

「第3期県立高校将来構想」は、令和4年度から令和13年度までの10年間を期間として、今後の県立高校の基本的な方向性を示したものであり、この構想を具体的に推進するに当たっては、年次的・計画的に進める必要があります。

特に「学校・学科の再編整備」については、今後の中学校卒業見込者数の減少や各学校の状況、本県の特性等を踏まえながら、全県的な視点に立って、5年単位の実施計画（前期実施計画・後期実施計画）を策定し、着実に取り組むこととします。